

## 鴨川市企業等誘致委員会第4回会議 会議録

日時：平成25年11月20日（水）  
 午後1時30分から午後3時30分  
 場所：市役所7階会議室

### 【出席者】

所属・職	氏 名	備 考
鴨川ふるさと会 会長	石川 忠男	
株式会社日本政策金融公庫 館山支店 支店長	加古 司	
株式会社ちばぎん総合研究所 受託調査部 副部長	関 寛之	
医療法人鉄蕉会 経営管理本部 総務部長	高梨 賢	
鴨川市商工会 会長	寺尾 忠行	委員長
株式会社ランナーズ・ウェルネス 取締役企画開発部長	比企 啓之	
学校法人城西大学 城西国際大学観光学部 学部長（教授）	渡辺 淳一	副委員長
鴨川市議会 副議長	佐藤 文秋	

### 【欠席者】

所属・職	氏 名	備 考
キッコーマンバイオケミファ株式会社 製造部鴨川プラント 工場長	杉谷 智博	
鴨川市議会 議長	野村 静雄	

（順不同、敬称略）

【事務局】

所属・職	氏名	備考
鴨川市企画政策課 課長	杉田 至	
鴨川市企画政策課 課長補佐	大久保 孝雄	
鴨川市企画政策課 政策推進係長	藤代 公貴	
鴨川市企画政策課 政策推進係員	犬石 貴久	

[会議資料]

- ・次第
- ・席次表
- ・出席者名簿
- ・資料8 奨励制度（案）について
- ・資料9 今後の企業等誘致施策のあり方について

---

1 開会（午後1時30分） 司会 杉田企画政策課長  
配布資料の確認。

2 委員長あいさつ

（要旨）

皆様ご多忙の折にも関わらずご出席いただきありがとうございます。

本日の会議では、新たな奨励制度に加え、答申に向けた諮問事項に係る協議をいただくことと致しております。

本日の結果を踏まえ、次回の会議において市長への答申を行う予定でございますので、委員の皆様には忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げます。

3 議事

鴨川市企業等誘致に関する条例第11条第1項の規定に基づき、寺尾委員長を議長として議事を進行。

議事録署名人として、石川委員及び関委員を指名。

【議事1】 奨励制度（案）について

事務局より、資料8に即して説明。資料のとおり承認された。

委員からの発言等については、次のとおり。

(関委員)

対象業種の要件を全業種としている市町村や、事業所の操業開始の日から10年以内に事業を廃止・休止した場合の奨励金の返還規定を設けている市町村は県内にあるのか。

(事務局・藤代)

成田市と白井市において、除外する業種はあるものの全業種を対象としている。

なお、いずれの市においても、対象業種の表記の方法は、「工場等」と明記することに加え、「その他の産業分類による事業の用に供する施設」と併記する形で、全業種を対象としている。

また、茂原市と館山市において、事業の廃止・休止に伴う奨励金の返還規定を設けている。

(関委員)

対象業種を全業種とすることには、メリットとデメリットがあると考え。メリットとしては門戸を広くすることで多くの企業が活用しやすいこと、逆にデメリットとしては市の産業振興のビジョンが見えない、すなわち市がどのような産業を振興したいのか発信できないことが挙げられる。

よって、全業種を対象とする場合は、市が振興したい業種については特記すべきであると考え。

また、事業の廃止・休止に伴う奨励金の返還規定であるが、税金の適切な運用に当たって必要な要件であることは認識しているが、その期間については、帝国データバンクの調査において、企業が立ち上がって10年間で約3割、20年間になると約半分が倒産してしまうとのデータがあることから、10年間という長期間での設定は、企業の経営者にとっては、奨励金の交付を受けることよりも、むしろ市に対して負債を抱えるとのイメージを持たれる可能性がある。

(事務局・杉田)

対象業種の選定については、最も苦慮したところである。

対象業種を全業種とすることは、鴨川市としてのイメージ・カラーを打ち出せないというデメリットはあるものの、特に工業団地を有していない本市が企業を誘致していくに当たって、なるべく門戸を広く設けておくべきとの判断から、今回の提案とさせていただいた。

なお、関委員からの意見を参考とさせていただき、市の進むべき方向性を示すためにも、奨励制度に関する条例等の条文には、振興していきたい業種を特記することについて検討していく。

また、奨励金の返還規定については、末永く本市において操業し、雇用を創出していただきたいとの思いから、公金の適切な運用も踏まえ、長期間ではあるが10年間との設定をさせていただいた。

(石川委員)

鴨川市は、充実した医療機関や大学施設を有することから、これらに関連した多様な企業の進出が期待できると考えられる。

また、あらゆる業種について誘致できる可能性があることを考え併せても、市の将来像の実現に向けて、対象業種については門戸を広げておくべきと思われる。

(渡辺委員)

関委員の意見のとおり、対象業種については、観光業や医療・福祉分野など、市が振興していきたい業種を特記すべきである。

(事務局・杉田)

奨励制度を理由に企業が進出する割合は低いものと認識しているが、本市の奨励制度については、多くの業種に門戸を広げ、さらには既存の企業の増設や中小企業にも配慮した要件緩和措置を設けるなど、より多くの企業が利用しやすい制度としたい。

なお、この制度が実現すると、県内でもトップクラスの「企業が利用しやすい制度」となることから、その特色ある制度を十分にアピールし、企業誘致に繋げて参りたい。

(加古委員)

奨励金の返還については、法的な観点から可能なことなのか。

また、立地奨励金として交付する固定資産税額においては、各種の法律等に基づく減免や不均一課税の取扱いはどう考えているのか。

(事務局・杉田)

奨励金を交付する際の根拠は条例に規定し、同様に、返還の根拠についても併せて条例に求めるものである。

また、立地奨励金については、減免や不均一課税の適用後の固定資産税額を上限として交付する。例えば、本市は全域が半島振興対策実施地域であることに加えて、一部が過疎地域に指定されており、条件によっては固定資産税の不均一課税の特例が適用されるが、立地奨励金については、不均一課税の適用後の固定資産税額を上限として交付することとなる。

(高梨委員)

企業誘致を促進するためには、企業に勤める従業員やその家族にとっても住みやすいまちであることが重要であり、教育や子育て支援等の分野にも力を入れる必要がある。

## 【議事2】 今後の企業等誘致施策のあり方について

事務局より、資料9に即して説明。資料に委員からの意見を踏まえた所要の調整を加え、答申(案)として調製していくことで承認された。

委員からの発言等については、次のとおり。

(加古委員)

本市におけるメディカルツーリズムの現状について、高梨委員に伺いたい。

(高梨委員)

亀田総合病院では、中国人の方が月に20人から30人訪れている。

また、高度な日本の医療技術を外国へ輸出する動きもある。

(石川委員)

鴨川市をどのようなまちにしたら良いか、比企委員の意見を伺いたい。

(比企委員)

まちおこしにおいては、徹底的な差別化を打ち出さない限りは注目されない。

企業誘致に関しては、奨励制度だけでなく、進出企業に対するソフト面での支援がどれだけ充実しているかが重要である。難しいことではあるが、差別化を図るため特色を打ち出すべきである。

鴨川市は首都圏近郊にありながら自然も豊かで他の地域と競争できる力があることから、圧倒的な特色を打ち出し、房総半島を牽引することで地域全体の活性化を実現できるものと認識している。

また、日本の再生事業の中で最も遅れているのは、漁港の再開発であると考えます。

海外の賑やかな漁港町を訪れると、「食」と「遊び」が全てマッチしており、醸し出すまち全体の雰囲気があり、他の産業も集積している。

船齢 40 年以上の漁船が多く見られる日本の漁港を改革し、観光資源として再利用できればと常日頃考えており、鴨川に当てはめてみても差別化を図るため有効な方向性の一つになるのではないと思われる。

(事務局・杉田)

大変貴重なご意見をいただいた。

本市に企業が進出していただくため、市職員が徹底的な差別化を図ることを常に念頭に置き、行政の職員であるという枠を越えた民間的な考え方のもと、企業誘致に積極的に取り組んでいくことが、企業に対するソフト面の支援の一つとだと考えられる。是非、答申に新たに加えさせていただきます。

(渡辺委員)

他にソフト面の支援として、企業誘致に係る窓口の一本化によるワンストップサービスの実施が考えられる。ワンストップサービスを実現するためには、企業誘致の担当課の枠を越えて、全庁体制で企業誘致を進める必要がある。

(事務局・杉田)

ワンストップサービスが実現できる組織体制の構築について、答申に加えさせていただきます。

(渡辺委員)

施策の方向性として、女性が活躍できる環境づくりや人材育成について答申に盛り込んでいかか。

(石川委員)

市長が掲げる（仮称）鴨川プラチナタウン構想は、全国屈指の医療クラスターを地域資源として有する医療と福祉のまち鴨川にふさわしい構想であるため、その推進については答申に盛り込

むべきものとする。

なお、鴨川ふるさと会では、平成 22 年 8 月に鴨川市に対し、高齢者コミュニティを核としたまちづくりについての提言を行った。これは、移住者の増加による医療・介護分野を中心とした産業の活性化、加えて同分野の産業に従事する若年層の定住人口の増加という、地域活性化の「好循環型勝ちパターンのまちづくり」を提案したものである。

さらには、子どもの教育環境に敏感な子育て世帯の定住を促すため、学校等における教育水準や文化水準の引き上げに関する事、また、シルバー世代の生きがいをづくりのための方策として、高齢者ボランティアの参加によるまちづくりについても提案を行った。

これらが組み合わせられたとき、その成果は国内外の関心と呼び、多数の観光客・視察団が本市を訪れることとなる。

また、知名度が上がった結果、企業誘致にも好影響があるものと思われる。

こうしたことから、鴨川市では、産・学・官・民が一体となったそれぞれのノウハウを結集したプロジェクトチームを早急に立ち上げ、まちづくりに取り組んでいくべきと考える。

また、2020年に東京オリンピック・パラリンピックの開催が決定したが、会場・空港から近く、充実した医療機関を有する鴨川市においては、このチャンスを活かし、より良いまちづくりに繋げていくことを期待する。

(事務局・杉田)

プラチナタウンやオリンピック・パラリンピック関連施設の誘致など、大きな政策を実現するためには、行政内部での組織づくりももちろん大事であるが、産・学・官・民が一体となった「オール鴨川」としてのプロジェクトチームの立ち上げは極めて重要なことであると認識している。

(比企委員)

まちづくりにおいて、そのデザインは最も重要であるが、日本中どこも同様の街並みとなっている。

鴨川市はデザインしやすいまちであり、また、豊かな自然を有し他と差別化できるまちでもあるため、100年先を見据えたまちづくりのデザインを描き、「誰もが住みたいまち」となるよう牽引していただきたい。

(渡辺委員)

100年スパンでの将来展望を見極めるには、専門家だけでは難しく限界があり、若い世代や女性の力が必要であることから、若い世代や女性の参画について答申に加えていただきたい。

(事務局・杉田)

了解した。

(佐藤委員)

観光都市である本市においては、「磯根資源を活用した交流人口の拡大」及び「行政と民間が一体となった観光拠点の整備」等の取組みなども有効ではないかと考えている。

(関委員)

答申として取り纏めていく際には、資料9の2(1)において、施策を早期に推進するという観点から、「次期総合計画等において」との文言を削除したらいかがか。

同じく(2)において、「交流人口の確保に関すること」と記載されているが、「確保」とは現状維持の意味であるため、「拡大」としてはいかがか。

さらに、「新たなツーリズムの展開」の文言の前に、より具体的な答申とするため、「メディカルツーリズムやスポーツツーリズムなど」と加えてはいかがか。

また、県内の市町村に先駆けて、パラリンピックの誘致についても答申に盛り込んではいかがか。

(高梨委員)

鴨川市においては、東京オリンピック・パラリンピック関連施設の誘致を推進していくことと認識しているが、亀田総合病院としても全面的にバックアップしていきたい。

(佐藤委員)

11月18日に開催された議員全員協議会において、長谷川市長より、東京オリンピック・パラリンピック関連施設の誘致に取り組んでいくことについて、行政報告が為されている。

(渡辺委員)

関委員のツーリズムに関する意見に対して、メディカルツーリズムやスポーツツーリズムのみの記載であると、交流体験型のもともとのニューツーリズムの概念から若干離れてしまう恐れがあるため、両方の流れを組み込んだ答申としていただきたい。

(石川委員)

鴨川市としてふるさと納税を一層推進し、「全国一のふるさと納税のまち」、「みんなでつくるふるさと鴨川」、そのようなまちづくりを提唱してはいかがか。

答申には、ふるさと納税が活きるようなまちづくりについて盛り込んでいただきたい。

(事務局・杉田)

了解した。

(加古委員)

東京オリンピックの開催を機に、複数の言語を操れる若い人材の育成が図られていくものと認識しているが、一過性のものではなく、メディカルツーリズムの展開など、本市の活性化に繋がられればと考える。

### 【議事3】 その他（次回会議の開催について）

(事務局)

今回の会議では、資料9をもとに、本日の会議の結果を踏まえた答申(案)についてご審議いただき、所要の調整を加えた上で、市長への答申を行うこととしたい。

日程については、1月下旬から2月上旬を目途に開催することとし、詳細については、追って書面にて通知をさせていただきます。

#### 4 閉会（午後3時30分）

以上

---



鴨川市附属機関等の会議の公開に関する実施要領第7条第3項の規定により議事録の内容について確認します。

平成25年11月27日

石川 忠 男

---

関 寛 之

---